

平成29年2月3日
チャレンジ!! オープンガバナンス2016
宇部市報告会

<地域課題タイトル>

わかりやすい健康情報の提供による市民が主体の健康づくり

がん検診受診率向上のための 情報提供の工夫

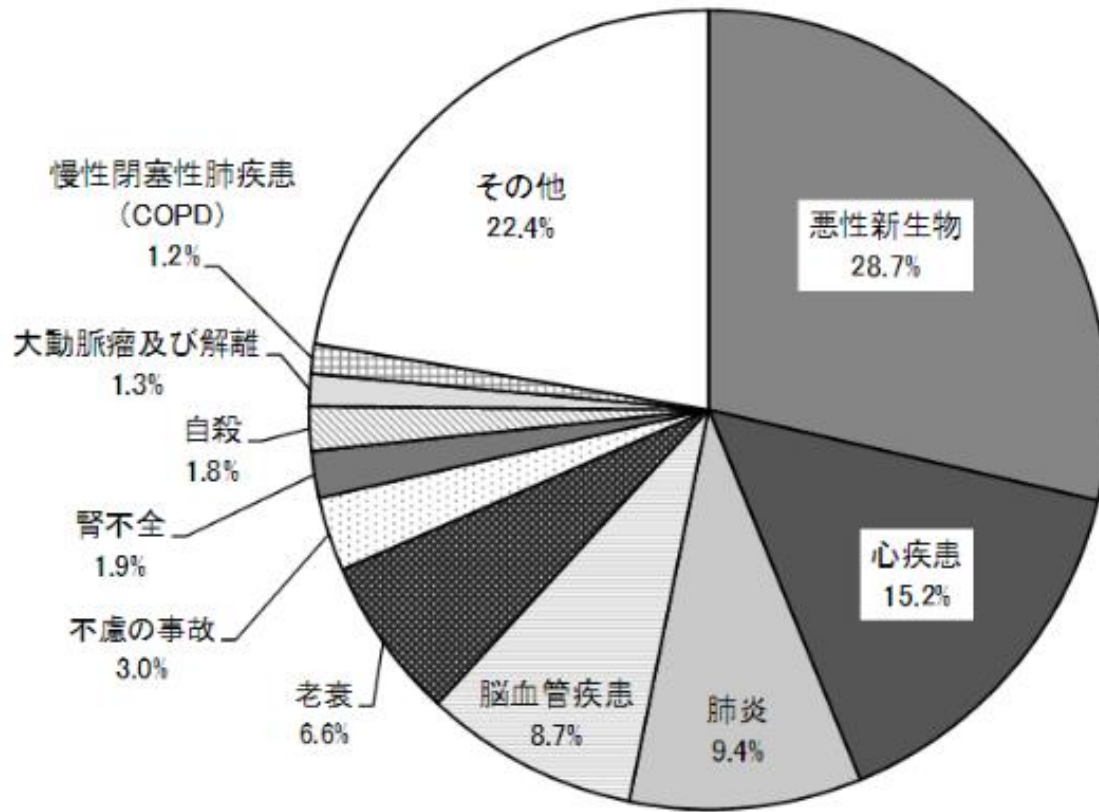
山口大学医学部

医学科 大崎崇正、西郷奈津子、平岡あきね、(長谷亮佑)

保健学科 秋丸日南子、廣田恋理

日本人の死因

我が国における死亡の現状として、悪性新生物(がん)が一貫して増加傾向であり、昭和56年以降ずっと死因の第1位を占めている。
平成27年の全死亡に占める割合は28.7%で、3.5人に1人はがんで死亡している計算になる。



がん検診の受診率の向上

国の健康増進における基本的方針を示した「健康日本21」で、がん対策の目標として、がん検診の受診率の向上が掲げられている。

項目	現状	目標
①75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少（10万人当たり）	84.3 （平成22年）	73.9 （平成27年）
②がん検診の受診率の向上	胃がん 男性 36.6% 女性 28.3% 肺がん 男性 26.4% 女性 23.0% 大腸がん 男性 28.1% 女性 23.9% 子宮頸がん 女性 37.7% 乳がん 女性 39.1% （平成22年）	50% （胃がん、肺がん、 大腸がんは当面40%） （平成28年）

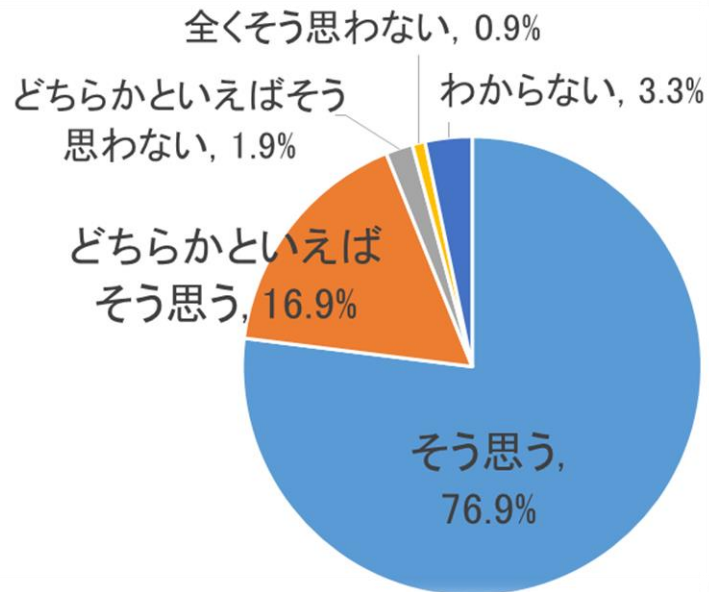
厚生労働省 健康日本21 目標項目一覧

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21/kenkounippon21/mokuhyou.html

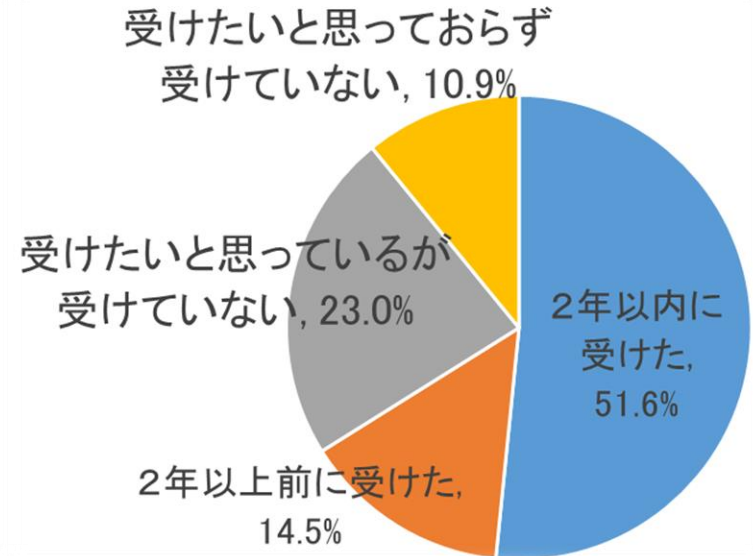
今回、宇部市の「わかりやすい健康情報の提供による市民が主体の健康づくり」を考えるに当たって、がん検診の受診率向上をテーマとした。

宇部市 がんに関する市民アンケート

「がん検診はがんの早期発見、早期治療につながる重要な検査だと思いますか」



「がん検診を受けたことがありますか」



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人が93.8%

合わせて3分の1の人ががん検診を受けたことがない

宇部市 がんに関する市民アンケート報告書(平成26年度実施)

<http://www.city.ube.yamaguchi.jp/kenkou/iryuu/gantaisaku/questionnaire.html> から作成

がん検診の意義はすでに広く認識されており、
今は実際に受診という行動に結びつくための施策が求められている。

死亡数および罹患数の多いがん

●2014年の死亡数が多い部位は順に

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓
女性	大腸	肺	胃	膵臓	乳房
男女計	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓

●2012年の罹患数（全国推計値）が多い部位は順に

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	胃	大腸	肺	前立腺	肝臓
女性	乳房	大腸	胃	肺	子宮
男女計	大腸	胃	肺	乳房	前立腺

罹患数

:新たにがんと診断された数

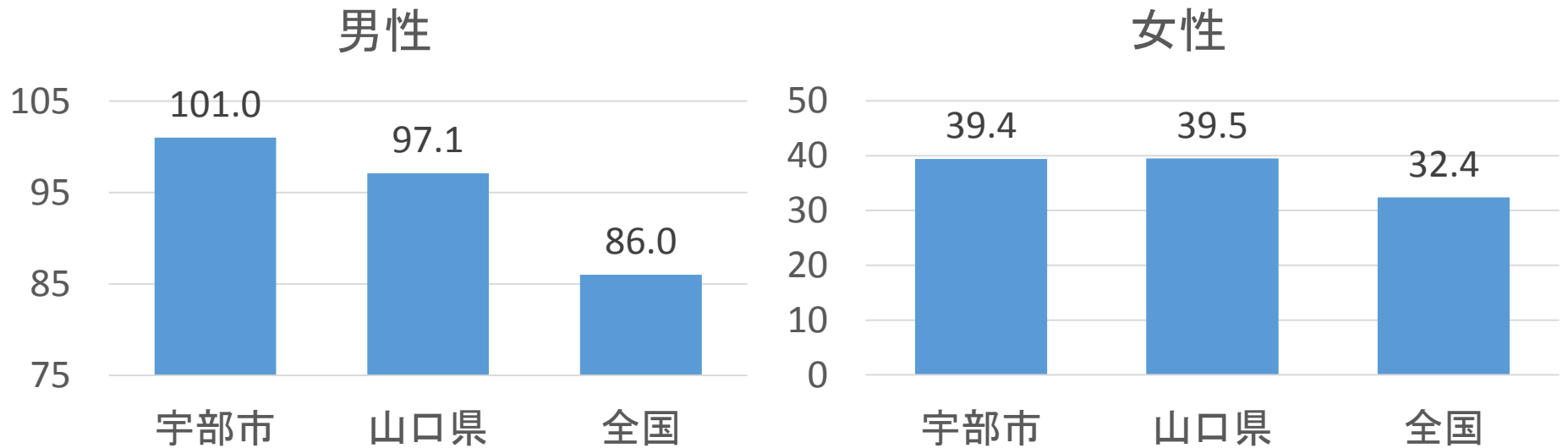
国立がん研究センター
がん情報サービス がん統計
最新がん統計

[http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/
stat/summary.html](http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html)

肺がんは「かかる数は3位なのに、死亡数は1位」ということになり、**早期発見・早期治療が十分にはできていないがんのひとつ**と言え、肺がん検診の受診率向上によって、死亡の減少が期待できる。

宇部市の肺がんの現状

平成26年の宇部市の肺がんによる死亡率(人口10万対)は男性が101.0で、山口県の97.1、全国の86.0よりも悪く、女性は39.4で、山口県の39.5とほぼ等しいものの、全国の32.4よりも悪かった。



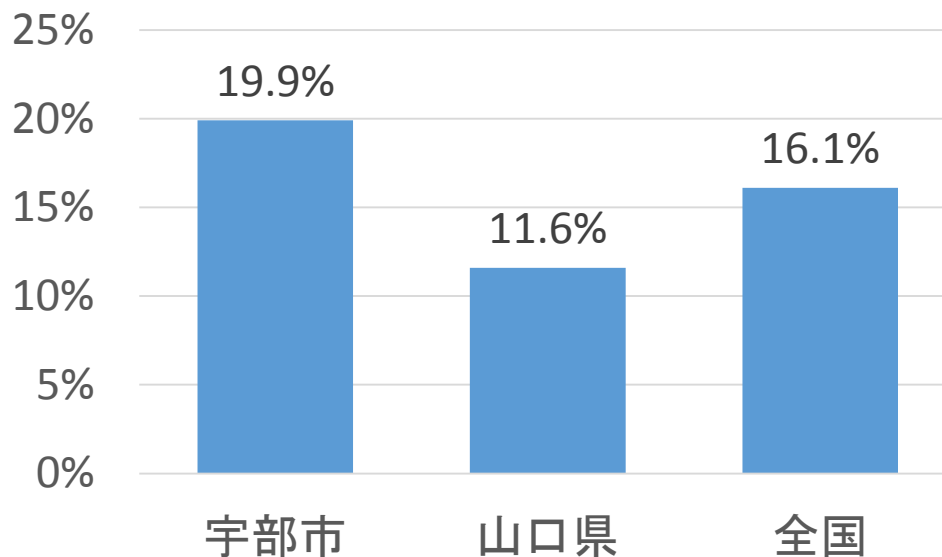
山口県健康福祉部 健康やまぐちサポートステーション やまぐち健康マップ(平成28年度作成)
<http://www.kenko.pref.yamaguchi.lg.jp/jouhou/data/map-index.html> から作成

宇部市の全がんによる死亡のうち、男性は26.9%、女性は13.9%を占めていた。

宇部市は肺がんによる死亡が比較的多い市と言える。

宇部市の肺がん検診受診率の現状

宇部市の平成26年度の肺がん検診受診率は19.9%で、山口県の11.6%、全国の16.1%に比べて高い。



平成27年度宇部市保健事業実績

しかし、肺がんによる死亡が多い現状を考えると、さらなる受診率の向上と共に、ハイリスクの人にこそ肺がん検診を受診してもらう必要がある。

肺がんのリスク要因

肺がんのリスク要因として喫煙が挙げられ、喫煙者の肺がんリスクは男性で4.8倍、女性で3.9倍とされている。

国立がん研究センター がん情報サービス それぞれのがんの解説 肺がん
<http://ganjoho.jp/public/cancer/lung/index.html>

喫煙指数(1日の喫煙本数×喫煙年数)が400を超えると、たばこを吸わない人に比べ、肺がんの罹患リスクが4.5倍になると報告されている

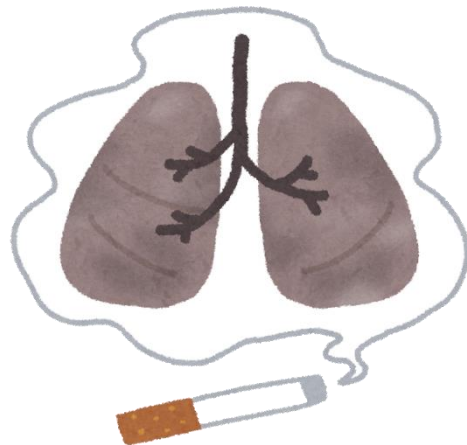
Sobue T et al. Cigarette smoking and subsequent risk of lung cancer by histologic type in middle-aged Japanese men and women: the JPHC study. Int J Cancer. 2002; 99: 245-51.
<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/11979440>

肺がん検診では、喫煙指数が400もしくは600以上の人に喀痰検査を併用するよう勧められている。

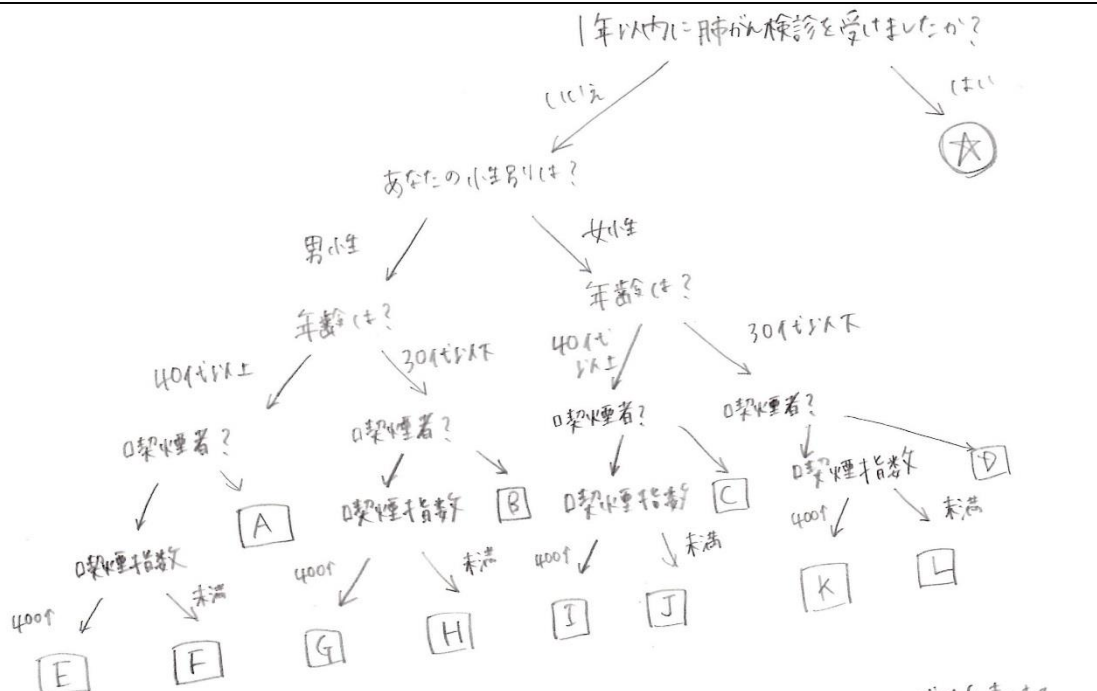
アイデア①

肺がん検診受診率向上を目指す取組

ハイリスク者を中心に肺がん検診受診者が増えることを目指し、検診受診歴、年齢、喫煙指数などによるフローチャートを作成し、該当するリスクに応じた肺がん検診受診の呼びかけを行う。



フローチャート案



★の人 → 1年以内に検診を受けたとのこと、すばらしいですね。この習慣をぜひ続けて下さい。

A、B、C、Dの人 → 喫煙していないから関係ないと思われていますが、喫煙しなくてもなりやすい肺がんがあります。ぜひ検診へ。

E、Fの人 → あなたの肺がんになるリスクは非常に高いです。ぜひ検診へ。

G、H、I、Kの人 → あなたの肺がんになるリスクはかなり高いです。ぜひ検診へ。

J、Lの人 → あなたの肺がんになるリスクは高いです。検診を受けて下さい。

このフローチャートを検診案内の郵便物やポスター、チラシに掲載することで、市民の目を引き、自分のこととしての認識が高まり、受診行動に導く効果があると思われる。

さらに、フローチャートを体験した市民が、情報の発信者となって、より多くの市民への周知につながると期待される。

死亡および罹患が増加傾向のがん

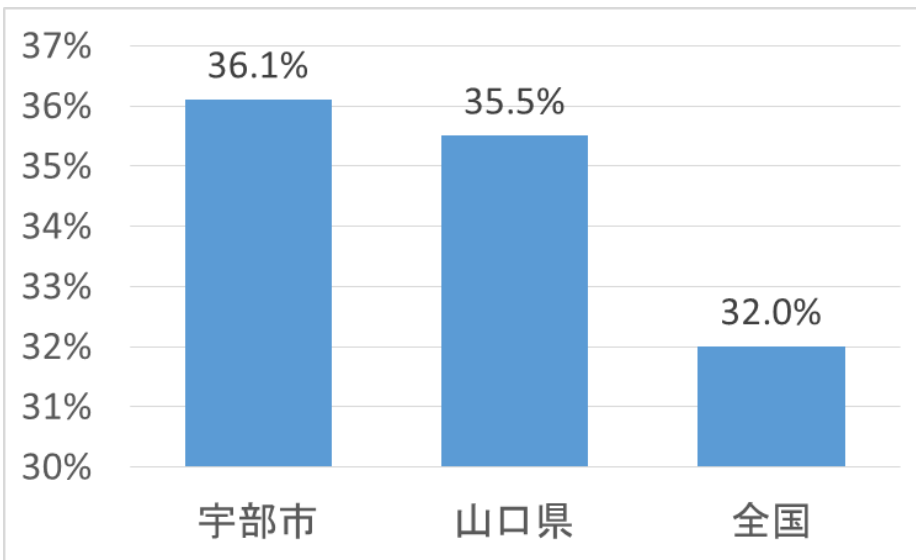
子宮がん(子宮頸がん、子宮体がん)は死亡、罹患とも増加している。
子宮頸がんは20歳代後半から30歳代後半まで増加した後横ばいになり、70歳代後半から再び増加するが、罹患率、死亡率とも若年層で高くなっている。

死亡	男性	増加	膵臓
		減少	食道、胃、直腸、肝臓、胆のう・胆管、肺、前立腺、甲状腺、白血病
		横ばい	結腸、大腸（結腸および直腸）、悪性リンパ腫
	女性	増加	膵臓、子宮、子宮頸部、子宮体部
		減少	食道、胃、直腸、肝臓、胆のう・胆管、甲状腺、白血病
		横ばい	結腸、大腸（結腸および直腸）、肺、乳房、卵巣、悪性リンパ腫
罹患*	男性	増加	食道、膵臓、前立腺、甲状腺、悪性リンパ腫
		減少	胃、肝臓、胆のう・胆管
		横ばい	結腸、直腸、大腸（結腸および直腸）、肺、白血病
	女性	増加	食道、膵臓、肺、乳房、子宮、子宮頸部、子宮体部、卵巣、甲状腺、悪性リンパ腫
		減少	胃、肝臓、胆のう・胆管
		横ばい	結腸、直腸、大腸（結腸および直腸）、白血病

宇部市の子宮がん検診受診率・子宮がんの現状

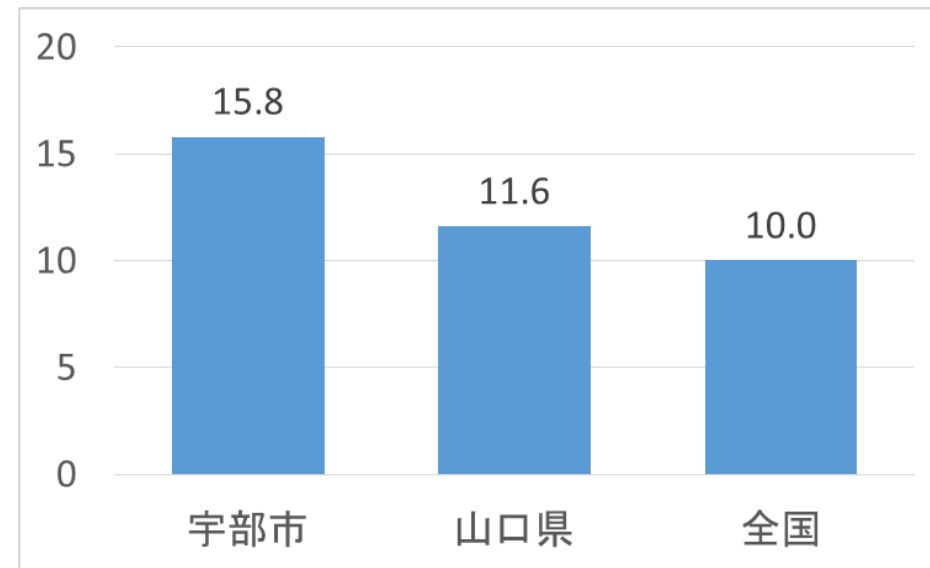
宇部市の平成26年度の子宮がん検診受診率は36.1%で、山口県の35.5%、全国の32.0%に比べて高いが、子宮がんによる死亡率(人口10万対)は15.8で、山口県の11.6、全国の10.0よりも悪い。

子宮がん検診受診率



平成27年度宇部市保健事業実績

子宮がんによる死亡率(人口10万対)



山口県健康福祉部 健康やまぐちサポートステーション
やまぐち健康マップ(平成28年度作成)

<http://www.kenko.pref.yamaguchi.lg.jp/jouhou/data/map-index.html>

宇部市では、子宮頸がんへの対策も強化する必要がある。

アイデア②

子宮がん無料検診受診率向上を目指す取組

子宮がん(子宮頸がん)に関して、宇部市では20歳女性を対象に無料検診を行っているが、自分達自身を考えてみても、無料検診の案内を受けた記憶がなかったり、案内の封筒を開封せずに捨てていたりした。

子宮がん無料検診の案内を手に取り、内容を確認しやすくするために、案内を封筒ではなく葉書にし、20歳女性が目を引くようなデザインにし、誕生日月を無料対象期間として、その1~2ヶ月前に通知が届くように送付する。



アイデア実現までの流れ

市民に対して発信される健康情報は、これまで行政や専門機関が作成・配布し、市民はただ一方的に受け取るだけだった。がん検診を受診すべき市民側が、
どうであれば情報を掴み、行動を起こしやすいかという受け手の視点を持って
作成・配布の段階から積極的に関与し、協働で作り上げる。

① フローチャート＋呼びかけ(案)、無料検診案内葉書(案)の作成

市健康推進課、医師会といった行政や専門機関が、医学的に正しい
フローチャート・呼びかけ内容(案)を作成する

② フローチャート＋呼びかけ、無料検診案内葉書の完成

市民が、①で作成された案をよりわかりやすく、より目を引くように
修正し、完成させる

③ 市民への周知

市や専門機関が葉書やチラシ、ポスターとして市民に発送し、市民は
周囲の人に情報を拡散したり、お互いに誘い合って行動したりする

アイデアの実現可能性

全くの新規の事業ではなく、既存のがん検診という事業の改善案であり、実現可能性が高いアイデアである。

国や市が「がん検診の受診率の向上」を目標に掲げており、今後も継続され、さらなる成果が求められる事業である。

特に特殊な人材や高価な物品は必要なく、経費は用紙代、印刷費、郵送料程度で、しかも現在行われている事業方式でも同様に支出されているものであり、多額な追加費用等は発生しない。

アイデアの発展可能性

がん検診は全国全ての自治体で行われているが、これまでに明らかな受診率向上の成果を上げた事例はなく、宇部市で成功すれば、他の市町村への拡大が期待できる。

今回、肺がん検診と子宮がん検診を取り上げたが、肺がん、子宮がんで成功を収めれば、他のがん検診にも同様のアイデアで改善を図ることができる。

さらに、がん検診だけでなく、一般健康診断や特定検診、人間ドックなどにも同じアイデアが活かせるかもしれない。